

# 令和2年度第2回庄原市初任者研修会

令和2年9月29日（火） 庄原市比和自治振興センター 比和自然科学博物館

「庄原市における教育課題を踏まえ、新規採用教職員に対して教育推進上の諸課題等について研修を行い、職務遂行上必要な実践的指導力を養うこと」を目的に、研修会を行いました。

【参加者：小学校教諭10名、中学校教諭8名、養護教諭1名、主事2名】

## 【講話】「教職員としての在り方について」

庄原市教育委員会 教育部長 片山 祐子

教職員としての基本姿勢を大切にすることについて、講話を行った。

- ◆教育の力が、ふるさと庄原を支え動かす役割を担っている。多くの人の支えにより教育が行えていること、市民、保護者から大きな期待を受けていることを常に心に留めておく必要がある。
- ◆庄原市が求める職員像は、市民との協働に努める職員、組織のミッションを理解し、実現のための最善の方法を導き出せる職員、新たな課題に果敢に挑戦していく職員である。このことは、目指すべき教職員像にも通じる。
- ◆高い倫理性と人格性、市民の信頼確保が求められる。教職員の心得として、法令や社会規範の遵守（守る）、自己研鑽（高める）、子供や保護者、地域の信頼を得る（応える）ことに努める。



（参加者の振り返りより）

- ◇教師として一社会人として「守る」「高める」「応える」の3つの心得を常に考えながら、日常生活を過ごしていきたい。
- ◇教職員の心得を改めて確認することができた。「一度失った信頼を取り戻すには長い時間がかかる」という言葉が印象に残り、これからの教員生活において忘れてはならないと思った。

## 【講話】「児童・生徒と向き合う」

庄原市教育委員会 教育指導課長 東 直美

教職員に期待される役割と児童・生徒への対応について講話を行った。

- ◆求められる教職員像として、普遍的な事項（教育的愛情と使命感、専門性、社会や子供の変化に対応できる柔軟性など）と新たな「教育県ひろしま」の創造に向けて特に求められる事項（授業力、コミュニケーション能力、挑戦する意欲など）がある。
- ◆学校教育法第11条に規定する児童生徒の懲戒・体罰等に関する参考事例を踏まえ、体罰に対する正しい認識に基づき、指導に当たること。
- ◆自分が何気なく言った一言が、子供に影響を与えることがある。自分が本当に大事にしていること、信念は何かを問い、自分の言葉が子供の心に届いているか考えることが大切である。



（参加者の振り返りより）

- ◇何気なく言った言葉や何気なく行った仕草一つ、子供たちはよく見ているんだと思うことができた。自分はきちんと子供と向き合っているだろうか、それはどのような状況だとそう言えるのだろうかなど考えるきっかけとなった。
- ◇強い信念をもち子供と向き合うことの重要性を理解した。生徒の鏡として日々の振る舞いを大事にしたいと思った。

## 【施設見学】「比和自然科学博物館」

比和自然科学博物館 館長 進藤 眞基

- 庄原市の豊かな自然や歴史に係る展示物やその価値について、館長の解説により見学を行った。
- ◆モグラやクジラの化石をはじめ、多くの生物の標本が展示及び管理されている。
  - ◆直接触れて観察できる生物や鉱石の標本があり、授業に活用できる。



(参加者の振り返りより)

- ◇興味深く話を聞かせていただいた。博物館の存在は地域の魅力につながることであり、庄原市で働く教職員として施設を知ることは重要であると感じた。
- ◇予想以上に広く、多くの展示品があり、とても楽しかった。動物以外にも化石や歴史なども学べ、小学生から大人まで学習できるすばらしい施設だった。ぜひ理科や社会科の学習に結び付けていきたい。

## 【講話・演習】教諭・養護教諭対象「確かな学力を育成する授業づくりについて」 庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 小谷 綾子

児童生徒に確かな学力を育成する授業づくりについて、講話・演習を行った。単元の目標を明確にし、児童生徒の姿を捉え、目標達成のために必要な手立てや工夫などを考えて、学習指導案の作成、改善を行った。

- ◆学習指導案を作成する際は、単元観、児童生徒観、指導観が一貫してつながりのあるものとなるようにすること。本時の授業案を作成する際も同様である。



(参加者の振り返りより)

- ◇学習指導案作成にあたって様々なアドバイスをいただいたので他の授業でも生かしていきたい。
- ◇日々、様々なことを並行して行っていかなければならない中で、指導法ばかりに捉われてしまっていたが、教材研究、その土台となる教材分析、素材研究の重要性を再確認することができた。

## 【講話・演習】主事対象「日々の業務について」 庄原市教育委員会 教育指導課 管理主事 辻坊 健作 主任主事 曾田 遼平

事務職員の年間スケジュールや財務に関わる基礎を確認するとともに、演習を交えて業務遂行上の留意点を確認した。

- ◆年間スケジュールを把握し、遺漏や遅滞なく業務を行うこと。
- ◆限りある財源を有効に活用するため、最少の経費で最大の効果を挙げるようにしなければならない。また、会計処理は速やかに適切に行う必要がある。



(参加者の振り返りより)

- ◇日々、基礎・基本の知識を学べる時間は少なく、この講話で財務、今後の業務予定などを聞くことができ、とても参考になった。
- ◇県費非常勤講師の実績簿を作成するにあたり、ポイントとなる点を学ぶことができ、参考になった。今後の事務処理スケジュールを基に準備をしようと思う。